

じぶんが自分になる

校 長 武井 正明

熊本では大雨が酷いことになっている。三条市教委時代、三条に線状降水帯が発生した。ずっと天気図を動かない真っ赤な線状降水帯を見ながら、窓外の滝のように降り続く大量の雨に恐怖を覚えてから、まだ10年も経っていない。

昨年暮れ、父がもう少し長生きして、ずっと平凡な年越しができるといいと願って4人で新しい年を迎えた。それから7か月余、娘は新居に引っ越し、親父もいなくなった。気づけば妻とふたりで迎える、さびしいお盆になっている。

つくづく思う。当たり前のしあわせというものは、いつまでも続くものではない。実に呆気ないくらいに、突然終わりを迎えてしまうこともあるものだ。

だから、少しでもその時間が続くように、そしてまた状況が変わっても、その状況下で、お互いに労わり合って、優しさと寛容さをもって生きていくことが、また新しいしあわせの形に繋がっていくのだと自分に強く、言い聞かせている。

ひとの世の しあわせは 人と人とが逢うことから始まる よき出逢いを

2年前の11月、東京の相田みつを美術館（現在は閉館）に行った。その時、自分の気持ちにぴったりのこの1枚の複製を購入してきた。相田みつをの言葉は、その時その時の自分の心の状態によって、響く言葉が違って来る。

昨日の早朝、十日町に向かう車中で「テレビ寺子屋」を偶然聴いた。相田みつをの息子さんの講演だった。

その中で彼が「みつをが一番多く使った言葉は何だと思いますか？」と問い掛けた。

答えは「自分」である。そして「偽（いつわり）」という言葉は「人の為（ため）」と書く。人の為なんていうのは嘘っぱちだと、みつをは、徹底的に「自分」を見つめた。

その一方で、晩年に「外灯」という詩を書いている。

外灯というのは 人のためにつけるんだよな

わたしはどれだけ外灯をつけられるだろうか

今、いろんなことに悩んでいるあなたには、「肥料」を贈りたい。

あの時の あの苦しみも あのときの あの悲しみも みんな肥料に なったんだなあ
じぶんが自分に なるために

中学時代はまずは、自分さがし。君の代わりは誰もいない。じぶんが自分になること、それがあなたが、誰かの「外灯」になる第一歩なのだと、私は思う。

吉中の皆さん、それぞれに、いいお盆をお過ごし下さい。